

# 岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想 (R4.3 改定版 (Ver.2)) 概要版

## ○岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想の方向性

### 【課題と方針】

#### ①豊富な資源の有効活用

観光需要の高まりや府内随一の漁獲高等の豊富な資源の有効活用が必要です。

そのためには中心市街地や漁業拠点などの立地条件、良好な交通アクセスなど、岸和田旧港地区周辺の「地の利」、「道の利」を活かすことが重要です。

#### ③未活用地等の有効活用

岸和田旧港地区（スポーツドーム跡地）の一部で土地利用方針が定まっていない未活用地の有効活用が必要です。また、阪南1区北東部と岸和田旧港地区の結節点に位置する浪切ホール北西部の土地の有効活用が必要です。

岸和田旧港地区周辺の活性化の視点から土地利用方針を定め、活用に向けて取り組むことが重要です。

#### ⑤岸和田旧港地区再開発事業の進捗

平成初期からの岸和田旧港地区再開発事業の進捗が停滞しています。「歴史、文化とウォーターフロントの再生」という当初のまちづくりのテーマは踏まえつつ、個々のエリアについては、近年の社会情勢や周辺環境の変化を踏まえ、時代のニーズに応じた機能の導入を図るなど、事業の早急な推進が必要です。

#### ②新たな地域活性化の取組との連携

阪南1区北東部では、大阪湾産鮮魚のブランド化・高付加価値化に向けた取り組みや、隣接飲食施設等との連携、「地蔵浜みなとマルシェ」の定期開催などの新たな地域活性化イベントが実施されるなど、みなとを活かした取り組みが進んでおり、当該地区と連携し、一体となって活性化を図ることが重要です。

#### ④周辺の類似施設との差別化

岸和田市周辺に類似の商業施設のオープンが続々と進む中、岸和田カンカンの核テナントであるイズミヤの撤退などをきっかけとし、新たな活性化対策が必要です。

そこで、岸和田市旧港地区の立地条件、親水性など地域特性を十分に活かし、他の施設との差別化を図ることが重要です。

#### ⑥岸和田市全域との連携や波及効果

人口減少や商業規模の縮小傾向は市域全体の課題であり、将来に向けた対策が必要です。そこで、既存市街地や丘陵地区など市内の各拠点と連携し、岸和田旧港地区周辺での取組が市域全体の活力の増進への波及効果となることが重要です。

### 【魅力づくり構想の目指すべき姿】

○阪南1区北東部・岸和田旧港地区、それぞれの資源や魅力を発掘、整理し、お互いに連携することにより1つの地域として価値を高めるとともに、にぎわいを創出し、一帯の活性化を図る。

○岸和田旧港地区周辺の立地条件や交通アクセス等の優位性を活用し、岸和田市内だけでなく泉州地域や関西国際空港などとの交流、観光の視点を強化し、にぎわいの創出に寄与する。

○岸和田旧港地区再開発計画が達成されていない中、岸和田旧港地区に再びスポットを当てるとともに、近年の社会情勢や周辺環境の変化を踏まえ、時代のニーズに対応した再開発プランの実行を図る。

○臨海部から市域全体に活性化の波及効果を図る。

### 【魅力づくり構想の基本コンセプト】

「豊富な資源をいかし、時代のニーズに対応した“にぎわいが持続・発展する魅力ある交流拠点”を実現！」

## ○整備イメージ図（ゾーニング）



①業務ゾーン  
既成市街地と連携した業務や生活利便施設など都市型住居に付帯するサービス機能の充実を図ります。

②商業・業務ゾーン  
既成市街地と連携した商業核を形成するとともに、臨海部の活性化及び高度化を図ります。

③都市型居住ゾーン  
水と緑豊かな環境に包まれた魅力的な住環境を維持・保全します。

④厚生都市交流ゾーン  
親水空間や周辺の水と緑豊かな環境を生かして、スポーツ・レクリエーション施設、病院、託児所など港湾関連事業者や市民の交流促進機能及び福利厚生機能の誘導を図ります。

⑤文化・交流ゾーン  
優れた交通ネットワークを活かし、宿泊機能を導入し浪切ホールを中心とした文化・国際交流拠点の形成を図ります。

⑥連携業務ゾーン  
漁業振興ゾーンなど、隣接するゾーンと連携する機能の導入により、本地区の活性化及び高度化を図り、にぎわいを創出します。

⑦漁業振興ゾーン  
漁業関連施設の充実により漁業の振興を図ります。

⑧物流ゾーン  
優れた交通ネットワークを活かした物流拠点の形成を図ります。